

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第5139199号
(P5139199)

(45) 発行日 平成25年2月6日(2013.2.6)

(24) 登録日 平成24年11月22日(2012.11.22)

(51) Int. Cl. F 1
A 6 1 F 13/15 (2006.01) A 6 1 F 13/18 3 4 0
A 6 1 F 13/472 (2006.01)

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2008-206269 (P2008-206269)	(73) 特許権者	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1 〇号
(22) 出願日	平成20年8月8日(2008.8.8)	(74) 代理人	100076532 弁理士 羽鳥 修
(65) 公開番号	特開2010-42061 (P2010-42061A)	(74) 代理人	100101292 弁理士 松嶋 善之
(43) 公開日	平成22年2月25日(2010.2.25)	(74) 代理人	100112818 弁理士 岩本 昭久
審査請求日	平成23年8月1日(2011.8.1)	(72) 発明者	草川 哲哉 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株 式会社研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

肌当接面側に配置された表面シート、非肌当接面側に配置された裏面シート及び両シート間に介在する吸収体を具備する縦長の吸収性本体と、該吸収性本体の長手方向の両側部に形成された防漏壁とを備えた吸収性物品であって、

前記防漏壁それぞれは、伸縮性シートの長手方向の一側部及び他側部を前記吸収性本体に接合部で接合するとともに、排泄部領域の前方及び後方において該伸縮性シートを該吸収性本体に接合して形成され、排泄部領域において、中空のループ状をなして起立しており、

前記排泄部領域におけるループ状の前記防漏壁それぞれの前記接合部は、前記吸収性本体の長手方向の側部における肌当接面側に前記伸縮性シートの前記一側部が接合され、前記吸収性本体の長手方向の側部における非肌当接面側に前記伸縮性シートの前記他側部が接合され、前記伸縮性シートの前記一側部の前記接合部は、前記防漏壁のループの外側表面を前記表面シートに向けて接合することにより、中空のループ状の防漏壁が形成される吸収性物品。

【請求項2】

前記伸縮シートは、複数本の弾性部材により伸縮性が付与されており、該複数本の弾性部材の内の一部の弾性部材は、前記吸収性本体の前記表面シートと前記伸縮シートの前記一側部との接合部の長手方向の外側縁より前記防漏壁の内方に存在する請求項1に記載の吸収性物品。

10

20

【請求項 3】

前記防漏壁それぞれは、前記吸収性本体の前記表面シートと前記伸縮シートの前記一側部との接合部の長手方向の内側縁より前記吸収性物品の内方に亘って形成されており、前記複数本の弾性部材の内一部の弾性部材は、該内側縁より前記防漏壁の内方に存在する請求項 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記防漏壁それぞれは、ループ状をなしている部分の前方及び後方の少なくとも一方において、前記吸収性本体の前記表面シートと前記伸縮シートの前記一側部との接合部の長手方向の内側縁より前記吸収性物品の内方に亘って形成されており、該接合部の上方に位置するループ状の前記防漏壁の内表面同士が接合されて、該接合部の長手方向の内側縁より吸収性物品の幅方向内方に内方ループ及び該接合部の長手方向の外側縁より幅方向外方に外方ループが形成されている請求項 1 ~ 3 の何れかに記載の吸収性物品。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、生理用ナプキンや失禁パッド等の吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、着用中の経血等の体液が幅方向に移動して側縁部から漏れてしまう横漏れを防止するため、長手方向両側縁部それぞれに防漏壁を設けた生理用ナプキンが知られている。

20

また、防漏壁の着用者へのフィット性を高める為に、中空のループ形状の防漏壁が知られている。例えば、引用文献 1 には、フィット性が高く、着用者の足の動き等の左右からの応力がかかった場合においても、中空のループ形状で緩衝し、生理用ナプキンにヨレを発生させず、漏れ防止性の高い中空のループ形状の防漏壁を備えた生理用ナプキンが開示されている。

【0003】

しかしながら、引用文献 1 に記載の生理用ナプキンは、ループ形状の防漏壁を形成する伸縮性シートと生理用ナプキン本体との接合部が、生理用ナプキンの肌当接面上に露出して存在しており、着用時に違和感を生じる場合がある。

【0004】

【特許文献 1】特開平 11 - 299821 号公報

30

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従って、本発明の目的は、着用時に違和感を生じ難い中空のループ形状の防漏壁を備え、中空のループ形状の防漏壁を備えることにより、着用者へのフィット性を高め、ヨレ防止、漏れ防止性に優れた吸収性物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、肌当界面側に配置された表面シート、非肌当界面側に配置された裏面シート及び両シート間に介在する吸収体を具備する縦長の吸収性本体と、該吸収性本体の長手方向の両側部に形成された防漏壁とを備えた吸収性物品であって、前記防漏壁それぞれは、伸縮性シートの前記長手方向の一側部及び他側部を前記吸収性本体に接合部で接合するとともに、排泄部領域の前方及び後方において該伸縮性シートを該吸収性本体に接合して形成され、排泄部領域において、中空のループ状をなして起立しており、前記排泄部領域におけるループ状の前記防漏壁それぞれの前記接合部は、前記吸収性本体の長手方向の側部における肌当界面側に前記伸縮性シートの前記一側部が接合され、前記吸収性本体の長手方向の側部における非肌当界面側に前記伸縮性シートの前記他側部が接合され、前記伸縮性シートの前記一側部の前記接合部は、前記防漏壁のループの外側表面を前記表面シートに向けて接合することにより、中空のループ状の防漏壁が形成されてなる吸収性物品を提供す

40

50

ることにより前記目的を達成したものである。

【発明の効果】

【0007】

本発明の吸収性物品によれば、ループ形状の防漏壁の形成に伴う接合部が、吸収性物品の肌当接面上に露出していないので着用時に違和感を生じ難く、そのようなループ形状の防漏壁を備えているため、着用者へのフィット性を高め、ヨレ防止、漏れ防止性を高めることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、本発明の吸収性物品である生理用ナプキンの好ましい一実施形態について、図1～図4に基づいて説明する。

10

【0009】

第1実施形態の生理用ナプキン1は、図1に示すように、生理用ナプキン1の長手方向に延びる中心線CLに対して左右対称に形成されている。

従って、以下には、主として生理用ナプキン1の左側の構成について詳述し、右側の構成については、適宜説明を省略し、左側の構成要素に対応する右側の構成要素は、符号にダッシュ(′)を付してある。

【0010】

本実施形態の吸収性物品(生理用ナプキン)1は、図1～図3に示すように、肌当接面側に配置された表面シート2、非肌当接面側に配置された裏面シート3及び両シート2, 3間に介在する吸収体4を具備する実質的に縦長の吸収性本体5と、該吸収性本体5の長手方向両側部5a, 5a′それぞれに形成された防漏壁7, 7′とを備えている。

20

防漏壁7, 7′それぞれは、図1, 図2に示すように、伸縮性シート6, 6′の長手方向の一側部6a及び他側部6bを吸収性本体5に接合部8, 8Dで接合するとともに、排泄部領域aの前方及び後方において伸縮性シート6, 6′を吸収性本体5に接合して形成され、排泄部領域aにおいて、中空のループ状をなして起立している。

排泄部領域aにおけるループ状の防漏壁7, 7′それぞれの接合部8は、吸収性本体5の長手方向(CL方向; CL線と平行な方向)の側部5aにおける肌当接面側に、伸縮性シート6, 6′の一側部6aが接合されている。ループ状の防漏壁7, 7′それぞれの接合部8Dは、吸収性本体5の長手方向(CL方向)の側部5aにおける非肌当接面側に、伸縮性シート6, 6′の他側部6bが接合されて形成されている。

30

本実施形態の生理用ナプキン1は、図1, 図2に示すように、伸縮性シート6, 6′の一側部6aの接合部8が、防漏壁7, 7′のループの外側表面(肌当接面側のシート61)を表面シート2に向けて接合されることにより、中空のループ状の防漏壁7, 7′が形成されてなる。

【0011】

ここで、「排泄部領域a」とは、装着者の体液排泄部に当接される領域を意味し、生理用ナプキンが個装形態に折り畳まれた際に生じる製品長手方向(CL方向)に直交する2つの折線について、生理用ナプキンの長手方向の前端から数えて第1折線と第2折線とに囲まれた領域と同じか又は狭い領域を言う。また、生理用ナプキンの製品長が長く3つの折線が生じる場合には、製品の長手方向の前端から数えて第1折線と第2折線に囲まれた領域あるいは製品の長手方向の前端から数えて第1折線と第3折線とに囲まれた領域と同じか又は狭い領域を言う。本実施形態の生理用ナプキン1における排泄部領域aは、図1に示すように、いわゆる2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1と第2折線a2とに囲まれた領域より狭い領域である。

40

【0012】

また、「起立」とは、中空のループ状の防漏壁7, 7′の上面が表面シート2の表面よりも上方に位置する状態を意味し、「凸に起立」とは、防漏壁7, 7′の最も上方に位置する部位が、表面シート2の表面よりも上方に位置する状態を意味する。

【0013】

50

本実施形態の生理用ナプキン 1 について、詳述すると、本実施形態の生理用ナプキン 1 は、図 1 に示すように、その長手方向（CL 方向）に、装着者の体液排泄部に当接される排泄部領域 a 後方に後方領域 b、排泄部領域 a、排泄部領域 a の前方に前方領域 c を備えている。防漏壁 7 は、少なくとも排泄部領域 a において、ループ状をなして起立している。このように、防漏壁 7 のループ状をなして起立している部分は、排泄部領域 a よりも、長手方向（CL 方向）に広い領域であり、本実施形態の生理用ナプキン 1 A においては、いわゆる 2 つ折の個装形態の際に生じる第 1 折線 a 1 と第 2 折線 a 2 とに囲まれた領域と略同じ大きさの領域である。本実施形態の生理用ナプキン 1 は、図 1 ~ 図 4 に示すように、表面シート 2、裏面シート 3 及び吸収体 4 を具備し、表面シート 2 と吸収体 4 とを固定する一対のエンボス溝 9 を具備している。エンボス溝 9 は、生理用ナプキン 1 の両側部に、長手方向に延びて延在している。表面シート 2 及び裏面シート 3 それぞれは、吸収体 4 よりも大きい外径寸法を有している。表面シート 2 及び裏面シート 3 は、生理用ナプキン 1 の長手方向の両端部において、吸収体 4 の長手方向の両端部から延出し、その延出部は互いにヒートシール等により接合されて吸収性本体 5 を形成している。裏面シート 3 の表面には、粘着剤が塗布されてズレ止め部（不図示）が形成されている。これらの構成は、従来品と同じである。

【 0 0 1 4 】

次いで、本実施形態の生理用ナプキン 1 のループ状の防漏壁 7 について説明する。

本実施形態の生理用ナプキン 1 では、図 1 ~ 図 4 に示すように、帯状の伸縮シート 6 が、吸収性本体 5 の長手方向（CL 方向）の側部 5 a に、長手方向に沿って、配設及び固定されており、伸縮シート 6 の収縮により、肌当接面側に凸に起立した中空のループ状の防漏壁 7 が形成される。

【 0 0 1 5 】

上記伸縮シート 6 は、本実施形態の生理用ナプキン 1 においては、弾性部材 6 3 により伸縮性が付与された複合シートである。伸縮シート 6 は、図 2 ~ 図 4 に示すように、肌当接面側のシート 6 1 と、非肌当接面側のシート 6 2 と、それらのシート 6 1、6 2 間に、複数本の弾性部材 6 3 を配置して形成されている。肌当接面側のシート 6 1 と、非肌当接面側のシート 6 2 とは、同形同大の帯状（長形状）のシートであり、上記伸縮シート 6 は、肌当接面側のシート 6 1 と非肌当接面側のシート 6 2 との間に、糸状の弾性部材 6 3 を、シート 6 1、6 2 の長手方向（CL 方向）に配置し、複数本の弾性部材 6 3 それぞれを、帯状のシート 6 1、6 2 の幅方向（CL 方向と直交方向）に均等に配置して形成されている。複数本の弾性部材 6 3 それぞれは、図 1 に示すように、防漏壁 7 を形成した際、装着者の体液排泄部に当接される排泄部領域 a より長く配置されている。

【 0 0 1 6 】

上記伸縮シート 6 は、図 2 ~ 図 4 に示すように、表面シート 2 及び吸収体 4 を挟持するように、伸縮シート 6 の長手方向の一側部 6 a の肌当接面側のシート 6 1 の表面が、吸収性本体 5 を構成する表面シート 2 の肌当接面側の表面に接合されて接合部 8 を形成している。また、伸縮シート 6 の長手方向の他側部 6 b は、図 2 ~ 図 4 に示すように、吸収体 4 と裏面シート 3 との間に配され、他側部 6 b の非肌当接面側のシート 6 2 の表面が、吸収体 4 の非肌当接面側の表面に接合されて接合部 8 D を形成している。また、排泄部領域 a の前方の前方領域 c 及び後方の後方領域 b において、伸縮性シート 6 は吸収性本体 5 に接合されている部分を有している。このように、帯状の伸縮シート 6 を、吸収性本体 5 の長手方向（CL 方向）の側部 5 a に、長手方向に沿って、配設及び接合しているため、伸縮シート 6 が収縮することにより、中空のループ状に起立した部分を有する防漏壁 7 が形成される。接合は、ヒートシールや接着剤等により行うことができる。本実施形態においては、接合部 8 はヒートシールにより形成されており、伸縮シート 6 の非肌当接面側のシート 6 2 と吸収体 4 との接合は、接着剤により行われている。また、本実施形態においては、表面シート 2 と吸収体 4 との接合は、接着剤により行われている。また、本実施形態においては、伸縮シート 6 の肌当接面側のシート 6 1 と裏面シート 3 との接合（接合部 8 D）は、ヒートシールにより行われている。

【 0 0 1 7 】

上記伸縮シート6を構成する複数本の弾性部材63の中の数本は、図2に示すように、少なくとも排泄部領域aにおいて、肌当接面側のシート61と表面シート2との接合部8の長手方向（CL方向）の外側の側縁（外側縁8b）の位置より防漏壁7の内方（生理用ナブキン1の中心線CL寄り）に配置されている。更に、本実施形態の生理用ナブキン1においては、図2に示すように、少なくとも排泄部領域aにおいて、防漏壁7が、接合部8の長手方向（CL方向）の内側の側縁（内側縁8a）より生理用ナブキン1の内方（生理用ナブキン1の中心線CL寄り）に亘って形成されている。そのため、複数本の弾性部材63の中の数本は、図2に示すように、少なくとも排泄部領域aにおいて、接合部8の内側縁8aの位置より防漏壁7の内方（生理用ナブキン1の中心線CL寄り）に、さらに

10

【 0 0 1 8 】

上記防漏壁7は、ループ状をなしている部分の前方及び後方の少なくとも一方、本実施形態においては、図3に示すように、2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1の部分と第2折線a2の部分それぞれにおいて、伸縮性シートを構成する肌当接面側のシート61と表面シート2との接合部8の上方に位置するループ状の防漏壁7の内表面同士、すなわち、防漏壁7を形成する伸縮シート6の非肌当接面側のシート62の表面同士を接合し、接合部8の長手方向の内側縁8aより幅方向内方に内方ループ71及び接合部8の長手方向の外側縁8bより幅方向外方に外方ループ72を有している。防漏壁7の内方ループ71は、図3に示すように、接合部8の内側縁8aより内方（生理用ナブキン1の中心線CL寄り）の防漏壁7の内表面同士、すなわち、伸縮シート6の非肌当接面側のシート62の表面同士を接合せずに、形成されており、縦断面形状が円形状の空洞である。

20

このように、上記防漏壁7は、第1折線a1の部分と第2折線a2の部分それぞれにおいて、図3に示すように、積極的に折られておらず、曲げられて形成されている。

【 0 0 1 9 】

本実施形態の生理用ナブキン1の長さは、好ましくは、240mm～440mmであり、2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1と第2折線a2との間の長さは、生理用ナブキン1の長さに対して、2%～60%の範囲の長さである。

本実施形態の生理用ナブキン1の防漏壁7の内方ループ71の円形状の空洞の幅方向（長手方向中心線CLと直交方向）の長さは、好ましくは、5mm～40mmである。

30

【 0 0 2 0 】

上記防漏壁7を形成する複合シートは、図1，図4に示すように、防漏壁7のループ状をなしている部分の前方及び後方、本実施形態においては、2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1の部分の前方と第2折線a2の部分の後方においては、弾性部材63が配置されておらず、伸縮性シート6を形成していない。複合シートを形成する肌当接面側のシート61及び非肌当接面側のシート62は、弾性部材63が配置されていない領域において、図1，図4に示すように、肌当接面側に凸に起立したの中空のループ状の防漏壁7を形成しないように、積極的に折り曲げられている。防漏壁7を形成する複合シートは、生理用ナブキン1の長手方向の両端部においては、表面シート2及び裏面シート3と同様に、吸収体4の長手方向の両端部から延出し、その延出部は、ヒートシールまたはホット

40

【 0 0 2 1 】

本実施形態の生理用ナブキン1の形成材料について説明する。

上記表面シート2、上記裏面シート3及び上記吸収体4としては、通常、生理用ナブキン等の吸収性物品に用いられるものであれば、特に制限なく用いることができる。

【 0 0 2 2 】

上記伸縮シート6としては、伸縮性を有し、少なくとも排泄部領域aにおいてループ形状に起立すると共に、このループ形状を保ちながら違和感がなく自在に変形する剛性を持つことが好ましい。更に、防漏壁7を形成する伸縮シート6としては、2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1の部分と第2折線a2の部分それぞれにおいて、接合部8の内

50

側縁 8 a より内方（生理用ナブキン 1 の中心線 C L 寄り）の内表面同士を接合せずに、内方ループ 7 1 を形成した時、このループの縦断面の円形状を保つ剛性を持つことがより好ましい。

【 0 0 2 3 】

上記伸縮シート 6 の伸縮物性は、生理用ナブキン 1 の長手方向（C L 方向）において、5 ~ 5 0 % 伸張した時の応力が 5 0 ~ 5 0 0 g f / 2 5 m m が好ましく、1 0 0 ~ 3 0 0 g f / 幅 2 5 m m がより好ましい。

次に、上記伸縮シート 6 の剛性は、バルクソフトネス値で 5 ~ 2 0 0 g f が好ましく、1 0 ~ 1 0 0 g f がより好ましい。バルクソフトネス値が 5 g f 未満であると、柔らかすぎループ形状を安定に保てず、2 0 0 g f を超えると、装着時に自在に変形しなかったり、違和感となるので好ましくない。

10

尚、バルクソフトネスは、下記の如く測定できる。即ち、弾性シートを長手方向に 1 5 0 m m、幅方向に 3 0 m m の大きさの帯状体として切り出し、この帯状体の長手方向両端を 5 m m 重ね合わせ、円筒状になる様にし、この重ね合わせた部分を側縁（円筒の上下縁）からほぼ 1 0 m m の位置にステーブルで 2 ヶ所固定する。次いで、テンシロン圧縮試験機にて、圧縮速度 1 0 m m / 分の速度で圧縮し、円筒が座屈するまでの最大圧縮強度を測定する。測定回数 5 回の平均値をとって、バルクソフトネス値とする。

【 0 0 2 4 】

上記伸縮シート 6 のシート材料としては、伸縮性のフィルム、伸縮性の不織布、伸縮性の織物又はそれらの積層シート等が挙げられる。具体的には、天然ゴム、ポリウレタン、ポリスチレン - ポリイソプレン共重合体、ポリスチレン - ポリブタジエン共重合体、ポリエチレン - アクリル酸エチル等のポリエチレン - オレフィン共重合体等からなる材自体が伸縮性を有する材料や、上述したように、これら伸縮性の材料を糸状にした弾性部材 6 3 を肌当接面側のシート 6 1 と非肌当接面側のシート 6 2 との間に配置した複合シートが挙げられる。

20

【 0 0 2 5 】

上記伸縮シート 6 の肌当接面側のシート 6 1 としては、肌触りを良好にするため、ポリエチレン / ポリエステル、ポリエチレン / ポリプロピレン、ポリプロピレンからなる熱可塑性不織布であることが好ましい。非肌当接面側のシート 6 2 も同様である。この様な熱可塑性不織布は、不織布自体が伸縮性を有するように、クリンプ加工した繊維を用いることが好ましい。クリンプ加工されていない繊維による伸縮し難い不織布を肌当接面側のシート 6 1 及び非肌当接面側のシート 6 2 に使用する場合には、あらかじめ弾性部材 6 3 を所定の伸張率まで伸張し、それを肌当接面側のシート 6 1 及び非肌当接面側のシート 6 2 に、ホットメルトやヒートシール等によって接着することによって、複合シートを作成しても良い。上記伸縮シート 6 の複数本の弾性部材 6 3 それぞれは、肌当接面側のシート 6 1 と非肌当接面側のシート 6 2 との間に、等間隔で配置している。

30

【 0 0 2 6 】

また、前記伸縮シート 6 には色が付与されていても良く、色は該伸縮シート 6 の肌当接面側のシート、非肌当接面側のシート、弾性部材のいずれにまたは全てに付与されていても良い。

40

【 0 0 2 7 】

次に上述した本発明の実施形態の生理用ナブキン 1 を使用した際の作用効果について説明する。

本実施形態の生理用ナブキン 1 は、図 1 ~ 図 4 に示すように、一対の中空のループ状の防漏壁 7 , 7 ' を備えており、ループ状の防漏壁 7 , 7 ' それぞれは、図 2 ~ 図 4 に示すように、吸収性本体 5 の長手方向（C L 方向）の一側部 5 a における肌当接面側に、伸縮シート 6 , 6 ' の長手方向（C L 方向）の一側部 6 a における外表面を接合することにより形成されている。このように、排泄部領域 a において、防漏壁 7 , 7 ' の形成に伴う接合の部位（接合部 8 ）が、肌当接面側の表面シート 2 上に露出していないので、着用時に違和感を生じ難いものである。

50

【0028】

また、本実施形態の生理用ナプキン1は、接合部8が排泄部領域aの前方から後方に渡り直線状に接合されていることと、2つ折の個装形態の際に生じる第1折線a1の部分と第2折線a2の部分それぞれにおいて、接合部8の内側縁8aより内方の防漏壁7の内表面同士が接合されておらず、内方ループ71を形成しており、積極的に折られておらず、曲げられている。そのため、伸縮シート6, 6'は、伸縮シート6, 6'の剛性により撓み易く、伸縮シート6, 6'が収縮すると、少なくとも排泄部領域aに位置する一対の中空の防漏壁7, 7'は、図2に示すように、断面略円状のループ形状に起立する。排泄部領域aに位置する一対の中空の防漏壁7, 7'が、ループ状に起立することにより、着用者へのフィット性が向上し、着用者の足の動き等の左右からの応力がかかった場合においても、中空のループ形状で緩衝し、生理用ナプキン1にヨレを発生しない。その為、生理用ナプキン1は、漏れ防止性の高いナプキンとなる。

10

【0029】

また、本実施形態の生理用ナプキン1は、防漏壁7, 7'を形成する伸縮シート6, 6'の複数本の弾性部材63の中の数本は、肌当接面側のシート61と表面シート2との接合部8の内側縁8aより防漏壁7の内方(生理用ナプキン1の中心線CL寄り)に配置されているため、少なくとも排泄部領域aに位置する一対の中空の防漏壁7, 7'は、図2に示すように、断面略円状のループ形状に安定して起立する。また、伸縮性シート6が着色されていると、伸縮シートの形状が認識されやすくなるためより起立の印象性を向上することができる。

20

【0030】

本発明の吸収性物品は、上述の本実施形態の生理用ナプキンに何ら制限されるものではなく、本発明の趣旨を損なわない範囲で、適宜変更可能である。

【0031】

例えば、上述の本実施形態の生理用ナプキン1においては、表面シート2と裏面シート3とが吸収体4の幅方向の両端から延出しておらず、伸縮シート6の長手方向の他側部6bにおける非肌当接面側のシート62の表面が、吸収体4の非肌当接面側の表面に接合されているが、表面シート2と裏面シート3とが吸収体4の幅方向の両端から延出し接合されており、他側部6bにおける非肌当接面側のシート62の表面が、延出した部分の裏面シート3の非肌当接面側の表面に接合されていても良い。

30

【0032】

また、上述の本実施形態の生理用ナプキン1においては、表面シート2と裏面シート3とが吸収体4の幅方向の両端から延出しておらず、伸縮シート6の一側部6aの肌当接面側のシート61が、吸収体4の上方に位置する表面シート2に接合しているが、表面シート2と裏面シート3とが吸収体4の幅方向の両端から延出して接合し、伸縮シート6の一側部6aの肌当接面側のシート61が、その延出した部分の表面シート2に接合されていても良い。

【0033】

また、上述の本実施形態の生理用ナプキン1においては、裏面シート3の表面に粘着剤を設け、ズレを止めているが、裏面シート3側にウイングを設け、これにより装着固定を容易なものとしても良い。

40

【0034】

本発明の吸収性物品は、生理用ナプキン以外にも、例えば、使い捨ておむつ、失禁者用パッド、パンティーライナー等に好適に用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図1】本発明の実施形態である生理用ナプキンの斜視図である。

【図2】図1に示す生理用ナプキンのX1-X1線断面図である。

【図3】図1に示す生理用ナプキンのX2-X2線断面図である。

【図4】図1に示す生理用ナプキンのX3-X3線断面図である。

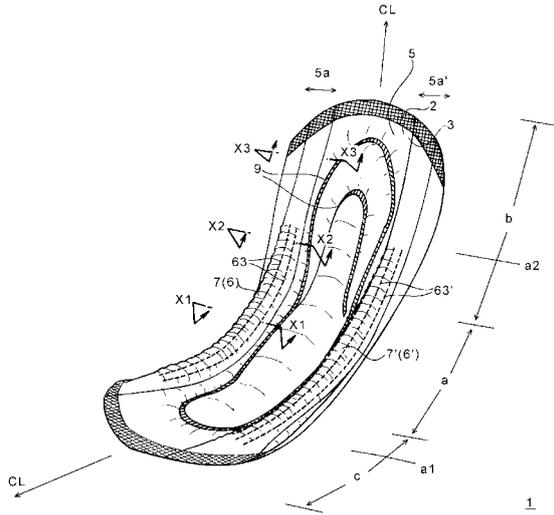
50

【符号の説明】

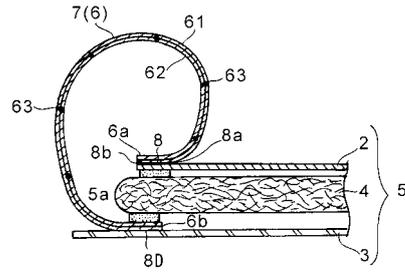
【0036】

- 1 生理用ナプキン
- 2 表面シート
- 3 裏面シート
- 4 吸収体
- 5 吸収性本体
 - 5 a , 5 a ' 吸収性本体の長手方向の両側部
- 6 , 6 ' 伸縮シート
 - 6 1 肌当接面側のシート 10
 - 6 2 非肌当接面側のシート
 - 6 3 , 6 3 ' 弾性部材
 - 6 a 一側部
 - 6 b 他側部
- 7 , 7 ' 防漏壁
 - 7 1 内方ループ
 - 7 2 外方ループ
- 8 , 8 D 接合部
 - 8 a 接合部の内側縁
 - 8 b 接合部の外側縁 20
- 9 エンボス溝
 - a 排泄部領域
 - b 排泄部領域 a の後方の後方領域
 - c 排泄部領域 a の前方の前方領域
 - a 1 第 1 折線
 - a 2 第 2 折線
- C L 生理用ナプキンの長手方向に延びる中心線

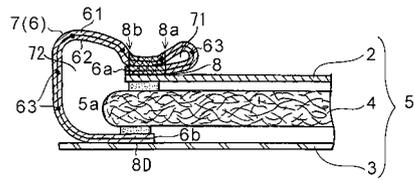
【図1】



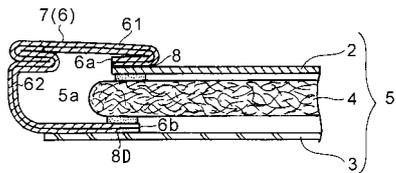
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 坂橋 春夫
栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会社研究所内

審査官 北村 龍平

(56)参考文献 特開2008-012128(JP,A)
特開平04-325153(JP,A)
特開平11-299821(JP,A)
特表平10-510335(JP,A)
実開平04-042817(JP,U)
特表平07-503387(JP,A)
特開平03-286760(JP,A)
実開平01-069521(JP,U)
特表平11-514253(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61F 13/00
13/15 - 13/84